

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日廿一日廿四日廿七日三十日十四發行)

# 縣報 第三百廿六號

明治三十七年六月三十日 和歌山縣

## 公文

○和歌山縣令第四十一號

炭疽發生ニ付左記ノ區域ヲ豫防線トシ牛馬羊豚ノ出入往來ヲ停止ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十七年六月廿八日

一那賀郡田中村大字打田

和歌山縣知事 伯爵 清 藤 家 敏

- 東 武田筆吉所有地限
- 西 青木龜吉居宅東小路限
- 南 宇野秀之助所有地限
- 北 阪上重吉所有地限



○和歌山縣訓令甲第三十四號

郡役所  
市役所  
町村役場

下士兵卒家族救助令取扱細則左ノ通相定ム

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵

清棲

家 教

下士兵卒家族救助令取扱細則

第一條 市町村長ハ下士兵卒家族救助願ヲ受ケタルトキハ實地ニ就キ調査シ事實審査書書式  
準及戶籍謄本 召集ノ當時ト戸主ノ異動アリテ 添付シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ差出スヘ  
ス 其ノ當時及現今ノ分トモ

郡長ハ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ調査ノ上自己ノ意見ヲ附シ知事ニ差出スヘ

第二條 救助ヲ許可セシ者ニ對シテハ其ノ金額等ヲ郡市長ニ通知ス郡長ハ之ヲ町村長ニ市町  
村長ハ本人ニ達スヘ

第三條 下士兵卒家族救助令施行規則第四條ニ當リタル者アルトキ或ハ被救助者ニシテ轉居  
轉籍死亡其ノ他身上ニ異動アリタルトキハ其ノ都度事由ヲ詳記シ市長ハ直ニ町村長ハ郡長ヲ  
經テ知事ニ報告スヘ

第四條 郡市長町村長ハ被救助者ノ名簿ヲ調製シ異動ノ都度加除訂正スヘ  
(書式)

事實審査書

陸(海)軍豫(後)備役(第一、二、補充兵)兵種官 何 某

右父(母等)ヨリ救助願ヲ差出シタルニ依リ調査スルニ左ノ如シ

第一 職業及勞役ノ能否

一 本人某ハ農ヲ業トシタル共自己ノ所有地ニアラサルヲ以テ何村何某ノ所有地何反歩ヲ  
小作シ餘力ニハ近鄰ニ於テ日稼ヲ爲シ其ノ所得ヲ以テ一家ノ生計ヲ爲シトアリシガ  
家本人召集ニ應ゼシ以來ハ其ノ小作ヲ中止セリ

一 父某ハ別ニ著ルシキ疫病アルニ非サレトモ年齢既ニ何十歳ニシテ身軀老衰セルヲ以テ  
業ノ補助ヲ爲シ得ヘキニアラス

一 弟某ハ何地ニ於テ何商ニ從事ス

一 妹某ハ炊爨ニ從事シ傍ヲ布織ヲ爲ス

第二 階級ノ所得最近ノ分

一 本人ノ勞働ニ依リ小作地ノ所得米何石何斗何々何貫目ニシテ一家食料ニ充テタルノ殘  
餘ヲ賣却シタルノ代金何圓何拾錢

一 本人日稼ヨリ得ル所ノ賃錢何圓何拾錢

一 弟某ハ云々

第三 資産ノ程度

一 土地ハ地目反別并時價ヲ記スヘ

- 一 公債株券ハ種額及額面ヲ記スヘシ
- 一 家屋ハ棟數坪數及見積價格ヲ記スヘシ
- 第四 價值
  - 一 金何圓債主ハ何村何某ニシテ利金ハ一ケ年何圓何拾錢抵當ニハ家屋何棟書入アリ
  - 第五 自己ノ任スル家賃
  - 一 家賃ハ一ケ月金何圓(或ハ自己ノ有ニ付之ヲ要セス)
  - 第六 租稅納額明治何年分
    - 一 國稅地租何拾錢
    - 一 縣稅地租何拾錢 戶數則何錢
    - 一 市町村稅地價則何拾錢 戶別則何錢
  - 但シ本市町村ノ縣稅戶數則等差ハ何十何等其ノ一戶平均額ヲ納ムルハ第何等ニシテ本人ハ其ノ第何十何等ニ當リ一戶平均額ヨリ何程少レ
  - 第七 扶養義務者其ノ他數額ヲ爲ス者ノ有無及扶養額
    - 一 何地次男何某ヨリ毎月金何圓ヲ給セラル
    - 一 何地兄何某ヨリ何々
    - 一 扶養義務者ナケレ共尙武會何村委員部ヨリ何々
    - 一 給助ニ關スルモノハ悉皆詳記スヘシ
  - 第八 何々(前諸項ノ外必要ト認メタル事項ヲ記ス)

縣報第三百二十六號 明治三十七年六月三十日 第三種郵便物認可

右ノ通ニ付救助令ニ依リ救助セザレハ生活シ能ハサルモノト認ム(或ハ救助スルニ及ハサルモノト認ム)

(救助ヲ要スヘク認メタルモノハ成ルヘク金錢給與ヲ達ク得ル機生業扶助現品給與應察ノ方法ヲ案出シ其ノ意見ヲ申出ツヘシ)

明治 年 月 日

何市町村長 何 某 印

○和歌山縣訓令甲第三十五號

郡 役 所  
市 役 所  
町 村 役 場

明治三十七年六月本縣告示第百七十二號但シ書ニ係ル下士兵卒家族救助願ヲ受ケタルトキハ町  
村長ハ來ル七月十七日迄ニ郡長ニ進達シ郡市長ハ同月二十四日迄ニ知事ニ差出スヘシ  
明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事 伯備 清 棧 家 敷

○和歌山縣訓令甲第三十六號

郡 役 所  
市 役 所  
町 村 役 場

軍人家族ノ救護方法ニ就テハ各地トモ相當督勵ヲ加ヘ諸種ノ団体亦之レカ計畫實行中ニ在ルモノ勸シトモ抑モ軍人家族ノ救護タル隣保相扶ノ誼ニ依リ生業ノ扶助ヲ主トシテ相當自營ノ方法ヲ講セシムルコト救助本來ノ旨趣ニ副ヒ且最モ適切ノコトナリ而カモ今回ノ戰役タル未嘗有ノ事件ニ屬スルヲ以テ應召者ノ家族ヲ救護シ之ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルハ事軍國士氣ノ振興ニ關スル勸カラサルニ依リ國家モ亦之ヲ保護スルノ必要アリ是レ曩ニ戰死者病死者ノ遺族并傷痍者等ニ對シテ扶助料及恩給ノ典ヲ厚フセラレ今又豫備役後備役并補充兵役ニシテ應召セル下士兵卒ノ家族ニ對シテハ特ニ其ノ救助ニ關スル命令ノ公布ヲ見ルニ至レル以所ナリ然レ共軍費多端ノ今日國家ノ救助ハ素ヨリ救護ノ一部ヲ資クルニ過キサルヲ以テ一般隣保相扶ノ施設ハ自今益々之ヲ獎勵スヘク尙事局ノ如何ニ依リテハ其ノ救護長期ニ渉ル亦圖ルヘカラサルヲ以テ救助ノ方法ニ關シテハ終始慎重ニ之レカ措畫ノ道ヲ盡スヘシ尙其ノ心得ヘキ事項ハ左ノ通ニ付此旨深ク留意シ置クヘシ

明治三十七年六月二十八日

和歌山縣知事 伯爵 清 榎 家 教

下士兵卒家族救助令施行ニ關スル心得事項

一 國家有事ノ秋ニ際シ應召軍人ノ家族タル者亦宜ク應召者ノ非常勞苦ニ察シ尙一層其ノ生業ニ努ムヘキハ勿論ニ付尙モ勞力ニ堪ユル者ハ百方之ヲ激勵シ徒ラニ他ニ倚頼スルノ弊ヲ防キ且蓋救ニ陥ラサル様注意スヘシ

二 救護ノ方法ニ於テ徒ラニ施與ノ救助ヲ爲ストキハ情民助長ノ弊ヲ生スヘキノ虞アルヲ以テ獨立自營ノ途ヲ探ラシムルカ爲勞テ生業扶助ヲ主旨ト爲スヲ要ス就テハ郡市町村長ハ事宜ニ應シ其ノ下附ヲ受ケタル實ヲ以テ授産就業ノ方法ヲ講究スル等有効適切ニ之ヲ活用スルノ方法ヲ採ルヘシ

三 救助ハ郡市町村長ノ行フ場合ト又他ノ施設ニ委頼シテ行フ場合タルトテ問ハス其ノ施行並ニ金品取扱等ニ關シテハ尙モ過誤失体ナキ様嚴密ノ監督ヲ爲スヘシ

四 救助ニ關スル手續ハ勞テ形式ノ煩ヲ避ケ受救者ヲシテ不便ヲ感スルガ如キコトナキ様注法スヘシ就テハ嚴密監督ノ下ニ市町村長等ハ受救者ノ總代トナルカ如キハ亦便宜ノ一方法タルヘシ尤モ其ノ取扱簡易ニ失シ却テ他日疑似ノ因トナルカ如キコトアルニ於テハ容易ナラサル備ニ付必要ナル書類帳簿ノ類ハ之ヲ明確ニスヘシ

五 各種団体等ノ救助ハ概シテ金錢給與ノ方法ニ依レルモノ、如キモ直接救助ハ諸種情弊ノ伴ヒ易キノミナラス交戦状態ノ久キキニ彌ルニ及ヒテハ自然救助ノ持續上ニモ困難ヲ感スヘキニ付已ムテ得ザル場合ノ外ハ成ルヘク之ヲ避ケ農業地方ノ如キハ耕耘ヲ助力シ又ハ副業ニ從ハレノ市街地ニ在テハ相當ノ方法ヲ設ケテ生業ノ途ヲ轉旋スヘシ

六 受救者ニ於テ其ノ給與ヲ受ケンカ爲此際ヲ機トシ漫ニ家族ノ救ヲ増シ若クハ重複給與ヲ受

タルガ如キ弊ナキヲ保セザルヲ以テ其ノ速爲ク注意スヘシ  
七救助ニ關スル施設ハ隣佑相扶ノ誼ニ基クモノナルヲ以テ協力ヲ致事ニ從フヘキハ勿論ノ處  
地方ニ依リテハ或ハ一時ノ感情々實ニ制セラレ敷個區々ノ團體ヲ設ケ却テ隣保隣睦ノ實ヲ  
失フモノモアルヤノ懸果シテ如斯事アルニ於テハ徒ラニ煩雜ヲ來シ延テ自然競爭ノ弊ヲ生  
スヘキヲ以テ是等ニ對シテハ統一確實ノ方法ヲ指示スヘシ

○和歌山縣告示第百六十八號

左記ノ者死亡ニ依リ本日和歌山縣產婆名簿ノ登錄ヲ取消ス

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵 清 榎 家 秋

西牟婁郡西富田村大字堅田九百二十二番地

開業 產 婆

尾 野 し 才

○和歌山縣告示第百六十九號

左記ノ者頭書ノ番號ヲ以テ本日和歌山縣產婆名簿ニ登錄ス

明治三十七年六月二十八日

和歌山縣知事

伯爵 清 榎 家 秋

日高郡切目川村大字龜之谷百拾四番地

和歌山縣平民

第六一〇號

不 野 廣

明治拾七年五月生

○和歌山縣告示第百七十號

明治三十年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>和歌山縣告示第五百三號阿片卸賣人中宇井貞次郎廢業ニ付更ニ左記ノ者ヲ阿片卸賣人ニ指定ス

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵 清 榎 家 秋

東牟婁郡新宮町

藥種商

中 口 光 次 郎

縣報第百三十六號

明治三十七年六月三十日

第三種郵便物認可

七

○和歌山縣告示第百七十一號

縣下那賀郡田中村大字打田武田筆吉飼化牛一頭本月二十六日炭疽ニ罹リ即日斃死セリ

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵 清 榎 家 秋

○和歌山縣告示第百七十二號

明治三十七年<sup>四</sup>月<sup>四</sup>勅令第九十四號下士兵卒家族救助令ニ依リ救助ヲ受ケントスル者ハ左記書式ニ準シ願書ヲ調製シ郡市役所町村役場ヲ經テ差出スヘシ

但シ現今召集中ニ係ル下士兵卒ノ家族ニ限リ其ノ願書ハ來ル七月十日迄ニ市役所町村役場ニ提出スヘシ若シ此期日ヲ經過セハ救助ヲ遲滯スヘキニ付不都合ナキ様注意スヘシ

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵 清 榎 家 秋

家族救助願

陸軍 豫備役 (第一、二) 補充兵

何 兵 何 等 卒 等 何 某

右ハ充員召集ニ應シ何年何月何隊ニ編入セラレ候處其ノ父私ハ何歳ノ老齡ニシテ且何年月日ヨリ何病ニ罹リ歩行困難ニ堪ヘス其母某ハ何年以前ヨリ眼病ニ罹リ白晝尙物色ヲ辨シ難ク其ノ長男某ハ僅ニ何歳ノ幼童ニシテ一家中勞働ニ從事シ得ヘキ者ハ皆無ナルノミナラス倚ルヘキ親族トテハ無之ニ付下士兵卒家族救助令ニ依リ相當御救助相成度此段奉願候也

明治 年 月 日

何郡(市)町村大字番地

右父

何

某 園

和歌山縣知事 爵 何

某 殿

正 誤

縣報第三百三十三號中告示第百六十三號明治三十七年度和歌山縣立德義中學校歳入歳出追加豫算第五項被費ノ下(金貳百參拾六圓)トアルハ(金百參拾六圓)  
 明治三十七年六月六日縣令第四十二號縣稅取極規則改正第一條第一號中料理屋ノ下(仕出屋)ノ割註ヲ脱ス飲食店ノ三字ハ誤  
 明治三十七年六月廿六日 和歌山縣

○叙任及辭令

○明治三十七年六月二十七日

和歌山縣東牟婁郡觀學 千田 稔  
 任和歌山縣西牟婁郡觀學

和歌山縣東牟婁郡天滿尋常高等小學校 久保 嘉七  
 訓導兼校長  
 任和歌山縣東牟婁郡觀學

給六級俸 和歌山縣西牟婁郡觀學 杉村 謙一郎  
 依願免本官 和歌山縣西牟婁郡觀學 杉村 謙一郎

縣報第三百三十六號 明治三十七年六月三十日 第三種郵便物認可 八

(各通) 和歌山縣西牟婁郡觀學 千田 稔  
 和歌山縣東牟婁郡觀學 久保 嘉七  
 給七級俸

○町村助役ノ異動

日高郡中山路村助役 古久保 勇助  
 全郡船着村助役 原井 又市  
 右六月廿五日認可  
 那賀郡調月村有給助役 津田 武二  
 西牟婁郡三舞村助役 中村 小文吾  
 右六月廿八日認可

○觀 測

明治三十七年六月廿五日ヨリ三日間當地氣象概況

種 類	六 月 廿 五 日		六 月 廿 六 日		六 月 廿 七 日	
	前 年	本 年	前 年	本 年	前 年	本 年



可認物便郵種三第日八月五年三十三治明

縣報第三百三十六號

明治三十七年六月三十日

第三種郵便物認可

九

平均氣壓	平均氣溫	最高氣溫	最低氣溫	最多風向	平均風力	天氣	雨雪量	記事
七五二耗一	二二度〇	二二度二	一八度八	西南西	二米七	曇小雨	一耗耗	午前時及 并ニ夕刻
七五九耗二	二三度八	二七度五	二〇度七	南夕西	三米〇	雨又曇	二〇耗九	前夜來ノ 降雨午前
七五三耗二	二〇度九	二三度五	一九度一	北	一米七	雨又曇	五耗五	午前二時 半ヨリ早
七五九耗二	二五度二	二九度〇	二二度五	南	三米七	半晴小雨	〇耗一	午后時夕 微雨ス
七五四耗〇	二二度一	二六度〇	一九度五	南西	三米二	半晴小雨	二耗六	午前七時 十分ヨリ
七五九耗一	二六度一	三〇度五	二二度三	北々西	一米九	晴	一耗二	午前一時 十五分海
								陸風雨ノ 警報ヲ解

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

上風雨ノ 警報ヲ解	十七分海	ヨリ降雨	電光	及降霧ヲ
除ス西方 ニ電光ヲ	警報到着	斷續		

明治三十七年六月二十九日印刷  
明治三十七年六月三十日發行

〔金銀紙〕

和歌山縣

和歌山市久保町一丁目一番地  
印刷人 山本友次郎  
印刷所 山本友次郎印刷所  
電話 九百九十九番

○和歌山縣訓令甲第三十四號

郡役所  
市役所  
町役場

下士兵卒家族救助令取扱細則左ノ通相定ム

明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事

伯爵 清棲 家 致

下士兵卒家族救助令取扱細則

第一條 市町村長ハ下士兵卒家族救助願ヲ受ケタルトキハ實地ニ就キ調査シ事實審查書<sub>書式</sub>及戶籍謄本<sub>左ニ</sub>ハ其ノ當時ト戶主ノ異動アラ<sub>シ</sub>ナ添付シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ差出スヘ<sub>シ</sub>

郡長ハ前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ調査ノ上自己ノ意見ヲ附シ知事ニ差出スヘ<sub>シ</sub>

第二條 救助ヲ許可セシ者ニ對シテハ其ノ金額等ヲ郡市長ニ通知ス郡長ハ之ヲ町村長ニ市町村長ハ本人ニ達スヘ<sub>シ</sub>

第三條 下士兵卒家族救助令施行規則第四條ニ當リタル者アルトキ或ハ被救助者ニシテ轉居轉籍死亡其ノ他身上ニ異動アリタルキハ其ノ都度事由ヲ詳記シ市長ハ直ニ町村長ハ郡長ヲ經テ知事ニ報告スヘ<sub>シ</sub>

第四條 郡市長町村長ハ救助者ノ名簿ヲ調製シ異動ノ都度加除訂正スヘ<sub>シ</sub>  
(書式)

事實審查書

陸(海)軍豫(後)備役(第一)ニ補充兵(兵種官)何 某

右父(母等)ヨリ救助願ヲ差出シタルニ依リ調査スルニ左ノ如シ

第一 職業及勞役ノ能否

一本人某ハ農ヲ業トシタルレ共自己ノ所有地ニアラザルヲ以テ何村何某ノ所有地何反歩ヲ小作シ餘力ニハ近鄰ニ於テ日稼ヲ爲シ其ノ所得ヲ以テ一家ノ生計ヲ爲シツムアリシガ家本人召集ニ應ゼシ以來ハ其ノ小作ヲ中止セリ

一父某ハ別ニ著ルシキ疫病アルニ非ヤレトモ年齢既ニ何十歳ニシテ身軀老衰セルヲ以テ業ノ補助ヲ爲シ得ヘキニアラス

一弟某ハ何地ニ於テ何商ニ從事ス

一妹某ハ炊爨ニ從事シ傍ヲ布織ヲ爲ス

第二 諸般ノ所得最近ノ分

一本人ノ勞働ニ依リ小作地ノ所得米何石何斗何々何貫目ニシテ一家食料ニ充テタルノ殘餘ヲ賣却シタルノ代金何圓何拾錢

一本人日稼ヨリ得ル所ノ賃錢何圓何拾錢

一弟某ハ云々

第三 資産ノ程度

一土地ハ地目反別并時價ヲ記スヘ<sub>シ</sub>

- 一 公債株券ハ種類及額面ヲ記スヘシ
- 一 家屋ハ棟數坪數及見積價格ヲ記スヘシ
- 第四 負債
  - 一 金何圓債主ハ何村何某ニシテ利金ハ一ヶ年何圓何拾錢抵當ニハ家屋何棟書入アリ
  - 第五 自己ノ任スル家賃
  - 一 家賃ハ一ヶ月金何圓(或ハ自己ノ有ニ付之ヲ要セス)
- 第六 租稅納額明治何年分
  - 一 國稅地租何拾錢
  - 一 縣稅地租何拾錢 戶數割何錢
  - 一 市町村稅地價割何拾錢 戶別割何錢
- 但シ本市町村ノ縣稅戶數割等差ハ何十何等其ノ一戶平均額ヲ納ムルハ第何等ニシテ本人ハ其ノ第何十何等ニ當リ一戶平均額ヨリ何程少シ
- 第七 扶養義務者其ノ他救護ヲ爲ス者ノ有無及扶養額
  - 一 何地次男何某ヨリ毎月金何圓ヲ給セラル
  - 一 何地兄何某ヨリ何々
  - 一 扶養義務者ナケレ共尙武會何村委員部ヨリ何々
  - 一 給助ニ關スルモノハ悉皆詳記スヘシ
- 第八 何々(前諸項ノ外必要ト認メタル事項ヲ記ス)

右ノ通ニ付救助令ニ依リ救助セザレハ生活シ能ハサルモノト認ム(或ハ救助スルニ及ハサルモノト認ム)

(救助ヲ要スヘシ認メタルモノハ成ルヘク金錢給與ヲ選ケ得ル様生業扶助現品給與施療ノ方法ヲ案出シ其ノ意見ヲ申出ツヘシ)

明治 年 月 日

何市町村長 何 某 印

○和歌山縣訓令甲第三十五號

郡 役 所  
市 役 所  
町 村 役 場

明治三十七年六月本縣告示第七十二號但シ書ニ係ル下士兵卒家族救助願ヲ受ケタルトキハ町  
村長ハ來ル七月十七日迄ニ郡長ニ進達シ郡市長ハ同月二十四日迄ニ知事ニ差出スヘシ  
明治三十七年六月廿八日

和歌山縣知事 伯爵 清 棲 家 敷

○和歌山縣訓令甲第三十六號

郡 役 所  
市 役 所  
町 村 役 場

軍人家族ノ救護方法ニ就テハ各地トモ相當督勵ヲ加ヘ諸種ノ團休亦之レカ計畫實行中ニ在ルモノ尠シトモ抑モ軍人家族ノ救護タル關係相扶ノ誼ニ依リ生業ノ扶助ヲ主トシテ相當自營ノ方法ヲ講セシムルコト救助本來ノ旨趣ニ副ヒ且最モ適切ノコトタリ而カモ今回ノ戰役タル未嘗有ノ事件ニ屬スルヲ以テ應召者ノ家族ヲ救護シ之ヲシテ後顧ノ憂ナカラシムルハ軍國士氣ノ振興ニ關スル尠カラサルニ依リ國家モ亦之ヲ保護スルノ必要アリ是レ難ニ戰死者病死者ノ遺族并傷殘者等ニ對シテ扶助料及恩給ノ典ヲ厚フセラレ今又豫備役後備役并補充兵役ニシテ應召セル下士兵卒ノ家族ニ對シテハ特ニ其ノ救助ニ關スル命令ノ公布ヲ見ルニ至レル以所ナリ然レ共軍費多端ノ今日國家ノ救助ハ素ヨリ救護ノ一部ヲ資クルニ過キサルヲ以テ一般關係相扶ノ施設ハ自今益々之ヲ獎勵スヘク尙事局ノ如何ニ依リテハ其ノ救護長期ニ渉ル亦圖ルヘカラサルヲ以テ救助ノ方法ニ關シテハ終始慎重ニ之レカ措畫ノ道ヲ盡スヘシ尙其ノ心得ヘキ事項ハ左ノ通ニ付此旨深ク留意シ置クヘシ

明治三十七年六月二十八日

和歌山縣知事 伯爵 溝 榎 家 教  
下士兵卒家族救助令施行ニ關スル心得事項

一 國家有事ノ秋ニ際シ應召軍人ノ家族タル者亦宜ク應召者ノ非常勞苦ニ察シ尙一層其ノ生業ニ努ムヘキハ勿論ニ付苟モ勞力ニ堪ユル者ハ百方之ヲ激勵シ徒ラニ他ニ倚頼スルノ弊ヲ防キ且蓋救ニ陥ラサル様注意スヘシ

二 救護ノ方法ニ於テ徒ラニ施與的救助ヲ爲ストキハ情民助長ノ弊ヲ生スヘキノ虞アルヲ以テ獨立自營ノ途ヲ探ラシムルカ爲勞テ生業扶助ヲ主旨ト爲スヲ要ス就テハ郡市町村長ハ事宜ニ應シ其ノ下附ヲ受ケタル資ヲ以テ授産就業ノ方法ヲ講究スル等有効適切ニ之ヲ活用スルノ方法ヲ探ルヘシ

三 救助ハ郡市町村長ノ行フ場合ト又他ノ施設ニ委爾シテ行フ場合タルトナ問ハス其ノ施行並ニ金品取扱等ニ關シテハ苟モ過誤失体ナキ様嚴密ノ監督ヲ爲スヘシ

四 救助ニ關スル手續ハ勞テ形式ノ煩ヲ避ケ受救者ヲマテ不便ヲ感スルガ如キコトナキ様注法スヘシ就テハ嚴密監督ノ下ニ市町村長等ハ受救者ノ總代トナルカ如キハ亦便宜ノ一方法タルヘシ尤モ其ノ取扱簡易ニ失レ却テ他日疑似ノ因トナルカ如キコトアルニ於テハ容易ナラサル儀ニ付必要ナル書類帳簿ノ類ハ之ヲ明確ニスヘシ

五 各種團休等ノ救助ハ概ソテ金錢給與ノ方法ニ依レルモノ、如キモ直接救助ハ諸種情弊ノ伴ヒ易キノミナラス交戦状態ノ久シキニ彌ルニ及ヒテハ自然救助ノ持續上ニモ困難ヲ感スヘキニ付已ムテ得ザル場合ノ外ハ成ルヘク之ヲ避ケ農業地方ノ如キハ耕耘ヲ助力シ又ハ副業ニ從ハシメ市街地ニ在テハ相當ノ方法ヲ設ケテ生業ノ途ヲ轉旋スヘシ

六 受救者ニ於テ其ノ給與ヲ受ケンカ爲此際手續トシ漫ニ家族ノ數ヲ増シ若クハ重複給與ヲ受

クルガ如キ弊ナキヲ保セザルヲ以テ其ノ邊鄙ク注意スヘシ  
七救助ニ關スル施設ハ國佑相扶ノ誼ニ基クモノナルヲ以テ協力一致事ニ從フヘキハ勿論ノ處  
地方ニ依リテハ或ハ一時ノ感情々實ニ制セラレ數個區々ノ團體ヲ設ケ却テ隣保隣睦ノ實ヲ  
失フモノモアルヤノ趣果シテ如斯事アルニ於テハ徒ラニ煩雜ヲ來シ延テ自然競爭ノ弊ヲ生  
スヘキヲ以テ是等ニ對シテハ統一確實ノ方法ヲ指示スヘシ

270

○訓内丁第四十八號

郡 役 所  
市 役 所  
町 村 役 場

第四師團國民兵召集規定別紙ノ通定メラレ候處右ハ此際成シ得ル限リ秘密ノ取扱ヲ要スル  
ニ付キ該規定中應召員ニ係ル事項ノ如キモ成ルヘク公示セサル權取計フヘシ  
右内訓ス

明治三十七年六月三十日

和歌山縣知事

伯爵 清 棲 家 救